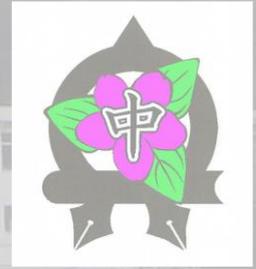


協働



「大人になる夏」

校長 原 善哉

◎「お手伝い」ではなく「家事分担」をする

普段はご家族の方が、食事の支度から掃除・洗濯、名もない家事まですべてやってくさっていると思います。しかし中学生はもう家庭を運営する一員です。自分の役割を決め実践してください。これは部活よりも習い事よりも受験勉強よりも優先順位の高いことだと思います。ぜひ毎日実践し、習慣付けて家族として大人として2学期以降も続けてください。この習慣は将来あなた自身を必ず支えてくれます。

これは夏休みのしおりに書いた一節です。「子供」という字を「子ども」と書くのは、子供は大人のお供ではないという人権的な意味があります。社会的には成人するまで保護者に保護される立場ではありますが、自分自身で自立しようとするれば、中学生も精神的に自立することはできます。この「家事分担」は、親のお供から自立し、家族を支える大人の一員となる入り口です。ご家族の皆様、ぜひお子様が中学生として自分のできることを増やし、達成感を味わい、大人として実感できる「家事分担」をお願いします。

そして、達成できたり習慣付いたりした時には「ありがとう」ではなく「ごくろうさま」の言葉で励ましてください。「ありがとう」は自分を助けてもらったとき、自分の仕事を手伝ってもらったとき、まさに「お手伝い」にかける言葉と考えます。「ごくろうさま」という言葉に、必ずや中学生達は無意識に家事分担を「お手伝い」ではなく「自分の仕事」とであると自覚していくはずで、よろしく願いいたします。

恥ずかしながら、じつは私も家庭において「家事を手伝う」などという意識がひょっこりと顔を出して家族に叱られることもいまだにあります。大人も日々精進と心得ております。

すでにお子様と実践されていらっしゃるご家庭の皆様には蛇足の話となりました事をお許しください。

さて奥中生諸君、家族は社会の最小単位です。家族への貢献は、まさに社会への貢献。

守られていた子供時代から大人社会へと飛び込み、奥多摩町に、そして社会のために、いったい何ができるのか。考えて、考えて、チャレンジし、最高の夏にしてください。



※ぜひ令和5年度学校だより7月号「夢と希望を語る夏」も合わせてお読みください。→ R5・7月号QR

7月「チャレンジする」～失敗することを怖がらない勇気を持つ～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
チャレンジの失敗を恐れない その日にやることを言葉で言う 目標の人物の良いところを書き出す	今までとは違う新しい取組をする 生徒のチャレンジを聞く 生徒が失敗してもプロセスをほめる	子どものチャレンジを聞く 子どもがトライしたことをほめる 新しいことを始めてみる

このコーチング目標でご紹介している、スポーツドクターの辻秀一先生を講師としてお招きし、教員研修を行うことができました。「心の在り方」を大切に「ごきげん」で生きることが、人生や教育活動の質を高めていくことを学びました。10月30日には、辻先生と交流のあるアスリートの皆さんと共に再び来校され、今度は中学生達に「ごきげん授業」をしていただきます。この授業は公開となりますので保護者の皆様もぜひご予定ください。※次号の学校だよりは9月号となるため、8月のコーチング目標を次ページに掲載しました。

出典：スポーツドクター辻秀一著「心の力コーチング～いつも勝てるライフスキルの育て方～」講談社

8月「集中する」

～過去のことや先のことより、今できることを一生懸命やる～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
必ず返事をする 今すべきことを考える 生卵をテーブルに立ててみる (集中カトレーニング)	今すべきことは何かを考えさせる 教師の話に返事をさせる 一生懸命取り組む気持ちが大切であることを教える	子どもに話しかけたら必ず返事をさせる 今すべきことを話し合う 子どもと一緒に生卵を立ててみる

出典：スポーツドクター辻秀一著「心のカコーチング～いつも勝てるライフスキルの育て方～」講談社